

平成23年度第4回普及・情報専門委員会 議事概要

- 日時 平成24年1月24日（水）13：30～15：00
- 場所 文部科学省・研究交流センター 2階 第1会議室
- 出席者 委員長：大嶋龍男
（敬称略） 委員：高橋秀和、助川友之、北村文昭、黒羽晋、河邊治雄、岡野正巳、
櫛田浩司、高田有理子
事務局：吉田重信、菊池正宏、伊藤祐二

■議事

1 筑協ホームページアンケート調査結果について

事務局から説明。

2 筑協ホームページの再構築の検討について

今回、筑協ホームページアンケート調査結果及び事務局素案を検討材料にしながら、目的は何か、何を発信していくのか、幅広い角度から忌憚のないご意見などを頂戴しました。

（委員の主な意見）

- ・筑協の予算の関係上、何ができて何ができないかは自ずと決まると思う。
- ・つくばで今何が行われているのかを知りたい人がいる。一般国民に向けて発信すべき。
- ・対象を3つに分ける必要はない。会員と会員以外の2つでいいと思う。
- ・つくば科学万博記念財団では、今つくばで何が研究されているのか、つくばサイエンスニュース（プレス発表を基に専門家が分かりやすく作成）を毎週発行している。アクセスは1500～2000件。筑協で作成するのは大変なので活用してはどうか。
- ・アクセス数を向上させるには、いかに企業の方にHPを見てもらうかである。企業がほしい情報をリサーチしないと難しい。
- ・TCIでは、研究成果の発表会やイベント情報など集約し、つくばホットライン（中小企業向けにわかりやすく作成したメルマガ）を毎週発行している。登録数は約500社。筑協で作成するのは人的・予算的に難しいと思う。
- ・筑協HPでは、研究成果やイベント情報は箇条書きにし、詳細は各機関のHPに飛ばす方法しかないと思う。また、対象については、筑協としてどういう方に来てもらいたいのかを考えて絞られた方が良い。
- ・毎年民間企業の会員が退会しているので、33企業をトップページで1～2週間ごとに

紹介してはどうか。アクセスも増えるし、脱会もしないと思う。

- ・サイエンスQの取り組みもあるので、学生は外せないのではないかな。
- ・全会員のご協力を得るために、筑協会員に対してHPをこのように充実させていきますよと幹事会や総会でアピールすべきである。そうしないとなかなか旨くいかないと思う。
- ・委員会の考えを会員に示して、意見を求めているかどうか。
- ・今後、懸賞を考えてはどうか。JAXAも協力できると思う。
- ・懸賞や有料広告などの工夫は大事だと思う。
- ・つくばの今を発信する（つくば発の研究成果や動きをPR・伝える）のは、やはり筑協でやってほしい。筑協のHPから、今のつくばが分かるようにすべきである。
- ・先日開催した「テクノロジーショーケース」は、まさにつくばの今だと思う。これを筑協HPで紹介すれば、研究者や企業にとってもメリットがあるし、筑協HPの魅力向上に繋がる。
- ・筑協は予算も人もいないので、きちんとしたHPを作るには外の協力・活用が必要。
- ・外部の方に筑協HPをどうクリックしてもらうかが大事。
- ・昔は相互の交流が重要だったが、今は日本が世界に目を向ける必要がある。

（結論）

- ①筑協HPの目的について、「一般への普及啓発と内外に積極的に発信していく」旨を加え改訂し、次回の幹事会で了承いただくこととする。
- ②筑協HPの対象については、会員向け以外に一般向けも加える。また、掲載内容については、業務に負担の掛からない程度に見直し整理する。
- ③予算の関係上、維持管理費（年95万円）の中で筑協HPを見直していく。
- ④委員会の考え（見直し案）を筑協会員にメールで示し、様々な意見をもらう。
- ⑤筑協HPのアクセス数向上策として、筑協会員に懸賞の協力を要請していく。
- ⑥3月に委員会を開催する。

2 その他

- ・委員長から、青少年の科学技術離れ対策の一層の推進のため、県内の小中学生を対象に「日本人宇宙飛行士との交流会」を来年度事業として開催したい旨の説明がありました。